

学校番号	2	学校名	静岡視覚特別支援学校	記載者	服部 匠子
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	評価	関係者評価	成果と課題
【育む】	○幼児児童生徒一人一人に応じた「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実。	○チーム研修を中心に、幼児児童生徒の日々のあられや事後研から授業や指導の改善につなげることができた。	A	A	一人1授業公開が授業改善につながっている。継続し改善に努めてほしい。
		○学年学部を超えた活動や他校との交流、外部講師の活用を通して多様な他者と学び合う場面を設定することができた。	A	A	西豊田小、静岡南部特支との交流が盛んでとても良い。
		○授業や日々の指導の中で個別のニーズに応じた情報機器の活用をすることができた。	B	B	障害に適した情報機器の活用を継続してほしい。
		○点字図書、拡大図書、電子書籍、触る絵本など視覚専門の図書を、幼児児童生徒が親しむ場面を設定したり、指導に活用したりすることができた。	A	A	点字図書、拡大図書が豊富にあり、活用できている。引き続き図書に触れ合う機会の確保に努めてほしい。
	○教職員の専門性維持・継承。	○ニーズに応じた新任研修や学習会が企画・運営されることにより教職員の専門性が向上した。	A	A	専門性の向上により個々のニーズに対応できていてとても良い。
【育む】	○幼児児童生徒が自己の将来をデザインするキャリア教育推進。	○幼児児童生徒のキャリア形成を見据え、目標を立てたり振り返ったりすることができた。	A	B	概ね良い。
		○面談の際にキャリア・パスポートを提示して検討することができた。	C	B	パスポートの内容について、保護者との情報共有を十分行ってほしい。
	○生涯にわたって健やかに生きるための健康づくりの推進。	○日々の生活や学習の中で食の話題を取り上げたり、授業に関連させたりしながら幼児児童生徒の食への興味関心を広げることができた。	A	A	触覚、嗅覚を刺激するような食材に触れるイベントがとても良い。継続してほしい。
【守る】	○幼児児童生徒の個性を尊重し、互いの良さを認め合うウェルビーイングの高い学校づくり。	○人権研修会や人権感覚チェックを実施し、人権感覚の向上を意識することができた。	A	A	概ね良い。
		○人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人権教育を行うことができた。	A	A	概ね良い。
	○幼児児童生徒が安全で安心して生き生きと学習できる環境整備。	○緊急時の対応を把握し、教職員間で連携して適切に対応することができている。	A	A	訓練が大切。マニュアルが多すぎると混乱を招くこともある。共通理解に努めてほしい。

	取組目標	成果目標	評価	関係者 評価	成果と課題
		○アイマスクや弱視レンズでのシミュレーションを通して校内環境について考え、整備や見直しをすることができた。	A	A	今後も幼児児童生徒の目線に立った環境整備を進めてほしい。
		○避難訓練や防災研修を通して、発災時における自身の役割を理解し、行動できた。	A	A	いざという時、だれが何をするか？共通理解に努めてほしい。
【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない連携支援体制の充実。	○関係機関と連携し相談者のニーズに応じた支援活動ができた。	A	A	仮移転により、今までとは違った関係作りができていて良い。継続してほしい。
		○視覚障害教育の理解推進に向けて関係機関への訪問や地域への情報発信ができた。	A	A	概ね良い。
		○幼児児童生徒や保護者が支援に係る関係機関とその役割が分かり、適切につながっている。	A	A	概ね良い。
	○チームで業務に取り組む効果的で心理的安全性の高い環境の維持向上。	○同僚や保護者、関係機関などの個性や立場の違いを認め合い、尊重したかかわりができた。	A	B	人権感覚チェックリストで気になる結果がある。原因究明と対策に取り組んでほしい。
		○会議や業務を計画的に進めたり、ノー会議デイを活用したりすることで、授業や指導に関わる業務の時間を確保することができた。	A	A	概ね良い。
	○地域や家庭、関係機関との連携・協働体制による地域ぐるみの教育の推進。	○地域資源を活用して幼児児童生徒の経験をひろげたり、学びを深めたりすることができた。	A	A	自治会とも交流できとても良い。さらに、交流を進めることで、高齢者と学校の間を深めてほしい。
		○地域の人材を活用して研修し、教職員としての資質向上に繋げることができた。	A	A	学校から希望があれば、自治会にオファーを出すなど、さらなる人材活用を進めてほしい。
		○幼児児童生徒や保護者のニーズを把握し、必要とする進路や支援の情報を提供することができた。	A	A	学校全体を見渡せるように、自分の子供の情報以外も共有できるように努めてほしい。
		○よりよい教育の在り方や地域のニーズについて学校運営協議会委員や静岡南部特別支援学校と共有し実現に向けて協働することができた。	A	A	静岡南部特支との交流が充実しているため、新校舎に戻っても継続してほしい。
	○新校開校を見据えた視覚障害教育の持続と包括的な共生を意識した学校づくり。	○新校のより良い学校環境づくりについて県教委や静岡北特別支援学校等と協働するとともに教職員が知的障害教育等について理解を深めることができた。	B	B	幼児児童生徒の得意なところは地域の力となり、不得意なところは地域が支援するという関係を築いてほしい。